

【決議事項】

I 令和 6 年度 事業報告書

(令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで)

I. 概 要

令和 6 年度は、賛助会員の皆様のご理解を賜り、29 年ぶりに賛助会費の引き上げを実施しました。今後とも協会の使命・役割である「航空の安全確保に資する事業」を推進してまいりますので、引き続きのご支援をお願いいたします。

事業概要としましては、「航空技術・航空安全の普及啓蒙」、「航空界の活動支援及び能力開発」、「航空技術者の育成と航空界貢献者への表彰」、「情報の発信、調査研究 助言・提言事業」、「図書の発行、改訂および頒布」の各事業を計画に基づき確実に実施するとともに、協会基盤の整備に取り組みました。

主たる取り組みとしては、「航空技術・航空安全の普及啓蒙」では、年間計画を策定し年 4 回の航空教室を効果的に開催したことに加え、初めて 2 団体での共催により、お互いの強みを活かした、より航空の裾野拡大につながる航空教室の開催も具現化しました。また、昨年度に引き続き開催した航空技術産業セミナーは、開催時期を早めるとともに、対面と Web のハイブリット型とし、より多くの学生に参画いただけるよう工夫を行いました。

「航空界の活動支援及び能力開発」では、講習会において、近年の継続課題について整理し、今後の取組みの方向性の明確化を図るとともに、受講実績がある企業様のニーズを的確に把握し、それに応えることができる新たな講習会を設定、開催し、好評を得ることができました。

「航空技術者の育成と航空界貢献者への表彰」では、無利子貸与型奨学金制度が 2 年目を迎え、より活用いただける制度とすべく、最も効果的な募集時期の設定（10 月から 11 月の一次募集と 1 月から 2 月の二次募集）や制度を理解いただくための動画の作成等を行いました。

また、奨励金制度についても、令和 7 年度以降も支給対象を変更して継続する方向性を明確にし、広く航空業界を目指す学生の育成を支援することとしました。

「情報の発信、調査研究 助言・提言事業」では、特定技能評価試験の実施要請の高まりを受け、実施回数および場所を拡大し、受験機会の提供に貢献するとともに、2 号試験の令和 7 年度実施に向けての準備を行いました。また、昨年度に引き続き、航空従事者学科試験のシラバス見直しを受託し実施しました。

「図書の発行、改訂および頒布」では、新刊図書として、「かなマニ」シリーズの第二弾「かなりマニアックな ヘリコプター豆知識」を刊行し、その効果もあり、図書の収益が予算を上回る等、収益事業として大きな貢献を果たしました。

「協会基盤の整備」では、フレックスタイム制の正式導入、教育研修規程の制定と研修の実施、およびノートパソコン、ルーターの更新によるリモートワーク環境の整備等を実施しました。

上記に加え、全職員が各事業計画の完遂に向けて積極的に取り組んだ結果、令和 6 年度決算

は、予算を 800 万円近く上回り、10,800 千円の黒字となりました。対予算の内訳としては、会費収入が 500 万円減となる中、収入全体で 1,200 万円の増、費用は 400 万円の増に留まりました。事業収入としては、講習会収入が予算を 300 万円ほど下回りましたが、特定技能評価試験、図書、航空技術の広告収入が予算を上回り、特に図書は、航空専門学校の学生数減に伴い、コロナ禍を経て 4,500 万円を切る収入規模となっておりましたが、かなマニ第二弾の発売等による一般向け書籍の販売増があり、5,000 万円を超えるレベルまで回復しました。

しかしながら、令和 6 年度は大幅な黒字となったものの、令和 8 年度には不可避となる事務所移転に関わる費用を確保しておかねばならず、また、転居による固定費の増も見込む必要があります。加えて、個人会員の会費収入の減少に歯止めがかかっていないことから、このままでは数年後には黒字を確保することが厳しくなる可能性があるため、会員減の歯止め策をしっかりと講じていくことに加え、事業収入の更なる拡大に取り組んでいくこととします。

1. 公益事業の推進

(1) 航空技術・航空安全の普及啓蒙

①航空教室

航空教室は、エアライン関連企業、整備会社のご協力を得て、工場見学、航空整備士・空港グランドハンドリング・グランドスタッフによる仕事紹介を交えるなど趣向を凝らし、内容を充実することで毎年多くの方にご参加いただいております。

今年度も、裾野拡大の観点から、メインの対象を小学 4 年生～6 年生とし、保護者と一緒に航空業界の魅力や楽しさを感じてもらえる航空教室を開催しました。

他団体との共催も実施し、航空機操縦士・客室乗務員の仕事紹介も実施しました。

昨年度に引続き、3 月には名古屋小牧にある三菱重工航空エンジン（株）のご協力のもと、整備・製造に特化した航空教室を実施しました。

また、「航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会」の裾野拡大ワーキンググループの取り組みの一環として、本協会（JAEA）、（一社）日本航空宇宙工業会（SJAC）、（公社）日本航空機操縦士協会（JAPA）、（一社）全日本航空事業連合会（AJATS）、（一社）日本女性航空協会（JWAA）、エアライン、航空機製造会社、ヘリコプター事業会社等が共催する「女性航空教室」は今年度より受講生を女性に限定せずに募集をし、12 月に対面・施設立入型として羽田空港の新整備場にあるスカイマーク（株）にてシミュレーター棟やモックアップの見学を含む航空教室を実施しました。

②シンポジウム

3 件の講演会を実施しました。9 月には（一社）日本航空宇宙学会、（一財）日本航空協会と共催で「空の日・宇宙の日」記念特別講演会を開催し、（株）JAL エンジニアリングによるエアバス A350 に関する最新の航空機システムの技術的な紹介を行いました。10 月には（一社）日本航空宇宙学会と共催の「飛行機シンポジウム」において 1 件の特別講演、5 件の企画講演を実施しました。2 月には本協会が主催する「航空安全シンポジウム」において 3 件の講演会を実施しました。会場参加と Web システムを利用し、日本全国から多くの方にご参加頂きました。

いずれも各講演会の主旨に沿った内容を提供することができ、航空関係者のみならず、これから航空業界を目指す学生の方、さらには多くの一般の方など、幅広い年齢層の方々にご聴講いただくことができました。聴講者からは「空の日・宇宙の日」では「普段見ることの出

来ない A350 のシステムを理解できた」、「航空安全シンポジウム」では「人材、新技術、品質の最新状況を聞くことができた」、「整備士人財確保については今までにない動きであり期待している」等のコメントを頂きました。

(2) 航空界の活動支援及び能力開発

① 講習会

令和 6 年度は、昨年度に引き続き対面講習とオンライン講習を同時に実施することにより、受講者の利便性の向上と収益の確保を目指しました。

定例講習会においては、開催を計画した講習会はほぼ開催することができ、予算は若干下回ったものの、昨年度並みの収益を確保できました。受託講習会においては、毎年受講頂いている定例的な講習はすべて開催できました。また、期中に新たに設定した講習会については、協会発行図書である『かなマニ』をテキストとした実機見学を含めた 5 日間の集中講習会や、航空機給油会社様向けのロールプレイ付きヒューマンファクター講習会、小型機・回転翼機を中心とした SMS 講習会の実施などに取り組みました。一方で、予算上、計画していたが開催の希望者が集まらず未開催となった講習会の影響により予算を下回ることとなりました。

今後は、サステナブルな講習会の開催と更なる顧客の拡大を視野に入れ、講習内容、開催方式などの講習会全般の品質確保に向けた基盤整理や新たな講習会設定、顧客開発に取り組んで参ります。

② 機関誌

年度計画に基づき、ニュースの充実、分かり易く読みやすい記事、動画コンテンツ等を追加した内容の掲載に取り組み、航空安全、航空技術の普及啓蒙に役立つ記事の発掘を続けています。各号の「ニュース・ダイジェスト」においては、航空業界で注目されている電動推進装置、水素燃料電池、SAF の最新動向、また世界各国で開発が行われている「空飛ぶクルマ」関連情報を多数掲載しました。

特集記事では、今後の発展普及が期待されるドローンや空飛ぶクルマに関する最新動向の紹介として、航空技術 7 月号で「eVTOL 機、東京都内で初飛行」、8 月号では「Japan Drone 2024」、9 月号には「九電ドローンサービスによる各種ドローンサービス」、11 月号には「福島ロボットテストフィールドの紹介」を掲載しました。このほか、新機材・新機器関連の記事掲載のほか、1 月号に産学共同「航空機整備技能コンテスト」開催記事、2 月号では人にフォーカスする記事として「(株) JAL エンジニアリング、トップマイスターに聞く！」も取材して掲載しました。

また、昨年度に引き続いて元 川崎重工業(株) XP-1/XC-2 チーフ・デザイナー 久保正幸 氏による「航空機設計」の連載、航空従事者試験問題解説も継続し、毎号、読者を意識した誌面作りを行ってきました。

③ 航空従事者に関わる支援養成事業

令和 6 年度は 9 月に成田国際航空専門学校で国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会が開催され、これにオブザーバーとして参加しました。

(3) 航空技術者の育成と航空界貢献者への表彰

① 「会長賞」表彰

航空の技術・安全・品質の発展に資する研究開発、グループ・個人の業務改善や航空技術

者の効果的、効率的な指導等において多大な成果、貢献があったと認められる活動に対し、賛助会員や航空業界のみならず他業界からも広く推薦を募り、「会長賞」(【企業・団体部門】及び【学校部門】)、「表彰審議会委員長特別賞」、「奨励賞」を選考し表彰を行っています。本年度【企業・団体部門】は会長賞 1 件、表彰審議会委員長特別賞 5 件、奨励賞 39 件、【学校部門】は会長賞 1 件を決定し、令和 7 年 6 月 5 日に表彰を行います。

② 学生奨励金、奨学金、卒業生への「会長賞」表彰

本協会の賛助会員である航空専門学校及び大学(航空関連学科)で学ぶ学生に対して奨励金(返済不要給付型)を 10 名に支給し、支援を行うことで航空人材育成の促進を図りました。

昨年度 12 月から運用を開始した無利子貸与型奨学金については、2 年目を迎え、より多くの航空整備士を目指す方に活用いただくことを目指し、募集時期、周知方法等を見直した結果、昨年度の 52 名から 69 名へ応募者が増加しました。

また、社会人として歩み始める学生を称え、航空業界での活躍に期待すべく、同じく本協会の賛助会員である航空専門学校及び大学(航空関連学科)全 9 校の卒業生(学生会員)の中から各校 1 名の学業優秀者を選考し「会長賞」を授与しました。

③ 叙勲、褒章、国土交通大臣表彰、東京航空局長表彰、大阪航空局表彰、他団体表彰

「叙勲」、「褒章」(内閣府賞勲局)、「国土交通大臣表彰」(国土交通省航空局)、「東京航空局長表彰」(東京航空局)、「大阪航空局表彰」(大阪航空局)候補者の推薦団体として、賛助会員各社から航空関連事業に従事し且つ永年勤続の功労の諸要件を満たす方をご推薦いただき、「褒章」4 名、「国土交通大臣表彰」13 名、「東京航空局長表彰」20 名、「大阪航空局表彰」13 名の候補者を推薦し、受章・受賞されました。

(4) 情報の発信、調査研究 助言・提言事業

コンサルタント(助言)

即戦力となる専門人材育成を促進するため航空専門学校が企業や団体と連携してその意見を取り入れて実践的学習を行う文部科学大臣認定の「職業実践専門課程」の教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会、学外委員として参画し、助言・提言を行いました。

「航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会」

(一社)日本航空宇宙工業会(SJAC)と共に、標記協議会とその下部組織、「整備士養成ワーキンググループ」、「製造技術者ワーキンググループ」、「裾野拡大ワーキンググループ」の事務局として運営に参画しました。

特定技能評価試験事業

航空分野における航空機整備及び空港グランドハンドリングの試験に係る技能評価試験実施機関として、令和元年度から試験を実施しています。令和 6 年度は、企業様からの要望を踏まえ、フィリピン・ダバオで新たに整備の試験を実施、現地教育機関でしっかりとした準備をして頂いたことが奏功し、合格率は 8 割を超える実績となりました。また、グランドハンドリングについては、大阪に加え、福岡及び名古屋で新たに試験を実施しました。令和 6 年度の合格証明書の発行数は、整備 22 通、グラハン 1,052 通となりました。

(航空分野の令和 6 年度から向こう五ヶ年の受け入れ人数の上限は 4,400 人)

また、整備、グラハンとも、「特定技能 2 号」の導入準備を進め、3 月上旬に入管庁より了解を得ることができました。令和 7 年度の早い段階で 2 号試験を実施いたします。

国土交通省 交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会

2025 年 3 月 27 日に開催された第 21 回技術安全部会に委員として参加し、助言、検討を行いました。

専門委員会

本協会が実施する種々の事業を専門的な観点で検討し、促進を図って行くために今年度も、整備士制度、グランドハンドリング、出版、シンポジウム、航空技術編集、訓練、の各委員会を開催しました。航空局において整備士資格制度の見直しが進められていたことから、整備士制度委員会と訓練委員会は一部を合同実施とし、航空局における検討状況等の共有を図りました。

・整備士制度委員会

令和 6 年 7 月 7 日付で第 37 期第 2 回会議を対面及びオンラインで開催しました。

航空整備士学科試験が CBT 化されたため、学科試験の公開がなく、下部会議体である「学科試験問題検討会」は、開催していません。また、「航空整備士・操縦士の人材確保・活用に関する検討会」の中間とりまとめの概要説明を行いました。

・出版委員会

令和 6 年 7 月 10 日付で第 37 期第 2 回会議を書面で開催しました。下部会議体である「講座本の平準化及び改訂検討会」のもと、【4】「航空機材料」と航空工学講座【3】「航空機システム」の改訂作業を進め、【4】「航空機材料」は令和 7 年 3 月に刊行しました。【3】「航空機システム」は令和 7 年度の刊行を予定しています。

・シンポジウム委員会

7 月 10 日に第 37 期第 3 回会議を書面で開催しました。「空の日・宇宙の日」記念特別講演会、第 62 回飛行機シンポジウム、第 37 回航空安全シンポジウムの開催予定について共有しました。

・調査研究

令和 5 年度に続き、令和 6 年度は、積み残しとなっておりました回転翼航空機、滑空機及び航空工場整備士の学科試験のシラバス見直し業務を航空局から競争入札を経て受託し、関係企業・団体様等からの協力を得て、年度内に納品を終えました。

2. 収益事業の推進

・新刊図書の発行／図書の改訂

新刊図書として、「かなマニ」シリーズの第二弾「かなりマニアックな ヘリコプター豆知識（以下、「ヘリ豆知識」）を令和 6 年 7 月に刊行しました。年度予想を上回る 2,800 冊を販売しました。

講座本については、より使いやすい図書をめざして改訂検討を進め、2024 年度は航空工学講座【4】「航空機材料」の改訂版を令和 7 年 3 月に刊行しました。また、講座【3】「航空機システム」の改訂作業に取り掛かっており、来年度の刊行を目指して進めています。な

お、今後も講座本を改訂していく事ができるように新たな著者を探してきましたが、見つかる事は出来ていません。引き続き著者探しを行っていきます。

その他、毎年定例で行っている改訂では、「2025 年版航空整備士学科試験問題集（問題編・解答編）」（3 月）、令和 6 年 3 月 29 日までに発行されたサーキュラーをまとめた「航空機検査業務サーキュラー集 追録第 61 号」（令和 6 年 10 月）、「新航空法規解説 第 21 版」（令和 7 年 3 月）を刊行しました。

また図書ではありませんが、会員専用「学科試験能力診断テスト」を一般の方もお試しできるように協会ホームページに掲載していますが、アクセスポイントをより分かり易い場所にも設置しました。

・図書頒布

前述の新刊図書「ヘリ豆知識」は予定通り令和 7 年 7 月末に刊行され、年度予想を上回る 2,800 冊を販売しました。

また、「ヘリ豆知識」の発行を足掛かりに、書店を直接訪問する販売促進を実施、大型店を中心に図書目録や「かなマニシリーズ」の抜き刷りも配置しました。訪問することが難しい遠方の書店には、電話などにより販売促進を実施しました。

令和 3 年 10 月に刊行した「飛行機豆知識」は、刊行当初と比較すると販売数が下降してはいますが、第二弾の「ヘリ豆知識」との相乗効果や新たな販促先を開拓した効果もあり、令和 6 年度に当協会図書で最も販売数が多く、出版から 3 年半で累計販売数が 16,000 冊に迫っています。

オンラインショップについては、費用削減の観点から、利用するサイトを変更しました。7 月に会員専用を、11 月に一般向けのサイトを一新しました。新たな販売サイトは利用できる決済方法も増え、購入される側の利便性向上にも繋がったのではと考えています。また、昨年度に引き続き、後述する教科書の販売の一部をオンラインショップで行いました。

年度末の令和 7 年度新入生用を主とした各航空専門学校への教科書採用分の販売は、令和 5 年度実績より若干上向きました。「ヘリ豆知識」の販売開始と「飛行機豆知識」の販売状況が引き続き好調であった結果も合わせ、令和 6 年度は前年度実績を超え・当該年度の図書頒布事業予算も達成しました。

一方、市中の書店への流通の際に経由する取次店（日販、トーハンなど）までの流れの見直しについては、多角的に検討した結果、見直しは行わないこととしました。

3. 公益法人事業基盤の整備／その他

今年度は職員の働き方改革と能力開発の促進を図るための施策を実施しました。

まず、職員の働き方改革に資する施策として、老朽化したデスクトップ型パソコンをノートパソコンへ更新するとともに、円滑なリモートワークの実施を支援する機器も更新し、IT 環境の整備に着手しました。来年度は電話設備の更新においてクラウドフォンの導入等についても検討し、2026 年に予定する事務所移転を視野に整備を進めていくこととします。

また、効率的な働き方を実現するために、4 月よりフレックスタイム制を正式導入しましたが、リモートワークと併せて効果的に活用されています。

次に、能力開発の促進を図る施策として、4 月に階層別教育、職能別訓練および自己啓発支援からなる「教育研修規程」を制定し、それに基づき年間研修計画を策定し、研修を実施することでより効果的に人財成長を支援することとしました。今後、継続的に職員の自律的

成長を支援し、職員がより主体性を発揮した協会運営を目指すこととします。

Ⅱ．事業活動実績（4月1日から3月31日まで）

A．航空技術・航空安全の普及啓蒙

（1）「航空教室」

コロナ禍の影響で航空業界へ興味を持つ子供が少なくなった、航空業界への就職を親が心配するなどの情報を得たため、昨年度からメイン対象者を小学4年生～6年生とし、保護者と一緒に参加してもらう事で、航空業界の魅力や楽しさを感じてもらえる航空教室へ方向転換をしました。今年度は9月に羽田空港（新整備場）において“空のお仕事紹介！航空教室”をJALスカイミュージアムにて実施しました。

また、10月には（公社）日本航空機操縦士協会との共催で『Fly with us & Yes I Can 航空教室（JAL）』を実施、ふだん飛行機を利用する際でも直に接することのないパイロット、整備士、管制官やグラハンによる講話、さらにCA、グランドスタッフの講話も実施、また格納庫では間近で機体見学も出来、印象に残るイベントとなりました。

11月には、『航空整備のお仕事紹介！航空教室（ANA）』を開催しました。

3月には昨年に続き、名古屋小牧にある三菱重工航空エンジン（株）のご協力のもと、整備・製造に特化した航空教室を実施しました。

各「航空教室」開催の周知については、今までの「空の日」ネット、Skyworks ホームページ、SNS を利用するほか、羽田開催では大田区役所羽田特別出張所および青少年対策羽田地区委員会、名古屋地区では小牧市役所のご協力を得て、募集をしました。その他の地域では周辺の小学校へ直接プレスリリースやパンフレットを郵送することで周知しました。

上記航空教室には「空の日」・「空の旬間」実行委員会に協賛いただきました。

「裾野拡大ワーキンググループの取り組み」

「女性航空教室 Yes I Can」：スカイマーク株式会社にて実開催（12.14）

国土交通省航空局／経済産業省製造産業局／文部科学省研究開発局の後援

（2）シンポジウム

①「空の日・宇宙の日」記念特別講演会

・2024年9月3日

・航空会館＋オンライン配信／（一社）日本航空宇宙学会、（一財）日本航空協会と共催

・参加者：会場聴講者＋Web 視聴者＝600名

・【講演】

「エアバス A350 で語る、最新の航空機システムの技術紹介」

（株）JAL エンジニアリング 技術部システム技術室 エアバスグループ グループ長
小林圭二氏

② 第62回飛行機シンポジウム

・2024年10月15日～10月17日

・福井県 AOSSA(アオッサ)(福井市)／（一社）日本航空宇宙学会と共催

・参加者：会場聴講者=450名

【特別講演】「新技術活用がもたらす航空機整備の変革について」

全日本空輸株式会社 坂下 亜祐子 氏

【企画講演】「複合材主翼組立工程への AI 活用 シム板厚予測モデル導入」

三菱重工業（株） 宮村 美里 氏

「航空機への複合材適用技術と将来動向」

（株）IHI エアロスペース 奥村 郁夫 氏

「磁気軸受スピンドルを用いた難削材への高品質孔開け」

川崎重工(株) 岡田 拓武 氏

「遺伝的アルゴリズムによる薄層 CFRP の積層構成最適化」

（株）SUBARU 塚崎 大和 氏

「環境負荷低減に向けた旅客機へのリブレット実装の取り組み」

（株）JAL エンジニアリング 緒方 隆裕 氏

③ 第 37 回航空安全シンポジウム

・2025 年 2 月 28 日

・航空会館＋オンライン配信 / 当協会単独主催

・参加者：会場聴講者＋Web 視聴者= 145 名

・【講演 1】

「整備士・操縦士を取り巻く環境の変化と必要な取組」

国土交通省航空局 安全部安全企画室 藏 智彦 氏

・【講演 2】

「NEDO グリーンイノベーション事業における次世代航空機の開発状況について」

NEDO 航空・宇宙部 馬渡 雄一 氏

・【講演 3】

「エアバス社から学んだ A350 機製造における品質管理体制および持続可能な組織を運営するために必要なダイバーシティの考え方」

(株)JAL エンジニアリング 品質保証部 近藤 明香 氏

B. 航空界の活動支援及び能力開発

（1）講習会

定例講習会を教室とオンラインのハイブリッド型で実施、受託講習会は講師派遣、また協会教室での実施による開催、開催回数は計 62 回（定例講習 53 回・受託講習 9 回）で受講者数 678 名（定例講習；530 名・受託講習；148 名）の実績をあげました。

① 航空法規講習会（79 名）

第 56 回（協会教室・オンライン）

受講者 10 名

(05.10)

第 57 回（協会教室・オンライン）

受講者 5 名

(06.13)

第 58 回 (協会教室・オンライン)	受講者 8 名	(07.12)
第 59 回 (協会教室・オンライン)	受講者 6 名	(08.06)
第 60 回 (オンライン)	受講者 10 名	(09.12)
第 61 回 (協会教室・オンライン)	受講者 18 名	(11.13)
第 62 回 (協会教室・オンライン)	受講者 12 名	(02.06)
第 63 回 (協会教室・オンライン)	受講者 10 名	(03.07)
② 航空業界入門講習会 (0 名)		
第 23 回 (協会教室・オンライン) ※開催なし	受講者 0 名	(04.24～04.25)
第 24 回 (協会教室・オンライン) ※開催なし	受講者 0 名	(10.03～10.04)
③ 整備管理従事者講習会【入門編】(20 名)		
第 18 回 (協会教室)	受講者 7 名	(07.24～07.25)
第 19 回 (協会教室・オンライン)	受講者 13 名	(11.20～11.21)
④ 整備管理従事者講習会【航空機耐空性管理コース】(31 名)		
第 23 回 (協会教室・オンライン)	受講者 12 名	(08.22～08.23)
第 24 回 (協会教室・オンライン)	受講者 14 名	(12.04～12.05)
第 25 回 (協会教室・オンライン)	受講者 5 名	(03.05～03.06)
⑤ 品質管理講習会【基礎編】(31 名)		
第 12 回 (協会教室・オンライン)	受講者 6 名	(04.26)
第 13 回 (協会教室・オンライン)	受講者 8 名	(08.02)
第 14 回 (協会教室・オンライン)	受講者 11 名	(10.22)
第 15 回 (協会教室・オンライン)	受講者 6 名	(01.09)
⑥ 品質管理講習会【実務編】(39 名)		
第 13 回 (協会教室・オンライン)	受講者 9 名	(06.04～06.05)
第 14 回 (協会教室・オンライン)	受講者 14 名	(09.04～09.05)
第 15 回 (協会教室・オンライン)	受講者 4 名	(11.14～11.15)
第 16 回 (協会教室・オンライン)	受講者 12 名	(02.12～02.13)
⑦ はじめてでもわかるヒューマンファクター (HF) 講習会 (46 名)		
第 13 回 (協会教室・オンライン)	受講者 16 名	(05.30)
第 14 回 (協会教室・オンライン)	受講者 11 名	(07.17)
第 15 回 (協会教室・オンライン)	受講者 11 名	(10.02)
第 16 回 (協会教室・オンライン)	受講者 8 名	(02.07)
⑧ ヒューマンファクターリカレント(HFR)講習会 (44 名)		
第 20 回 (協会教室・オンライン)	受講者 10 名	(06.14)
第 21 回 (協会教室・オンライン)	受講者 14 名	(09.13)
第 22 回 (協会教室・オンライン)	受講者 9 名	(11.01)
第 23 回 (協会教室・オンライン)	受講者 11 名	(02.05)
⑨ ヒューマンファクターアドバンス講習会 (34 名)		
第 32 回 (協会教室・オンライン)	受講者 17 名	(09.26～09.27)
第 33 回 (協会教室・オンライン)	受講者 17 名	(01.22～01.23)
⑩ SMS (安全マネジメント) 講習会 (44 名)		
第 54 回 (協会教室・オンライン)	受講者 9 名	(05.24)
第 55 回 (協会教室・オンライン)	受講者 11 名	(07.05)
第 56 回 (協会教室・オンライン)	受講者 15 名	(10.11)

第 57 回 (協会教室・オンライン)	受講者 9 名	(01.17)
⑪ 内部品質監査講習会 (34 名)		
第 61 回 (協会教室・オンライン)	受講者 16 名	(06.21)
第 62 回 (協会教室・オンライン)	受講者 10 名	(10.10)
第 63 回 (協会教室・オンライン)	受講者 8 名	(02.21)
⑫ 航空用英語学習講習会【入門編】(2 名)		
第 7 回 (協会教室)	受講者 2 名	(07.11)
⑬ 航空用英語学習講習会【基礎編】(0 名)		
第 5 回 (協会教室・オンライン) ※開催なし	受講者 0 名	(08.08)
⑭ 航空用英語学習講習会【応用編】(7 名)		
第 13 回 (協会教室・オンライン)	受講者 7 名	(02.14)
⑮ 航空用英語学習講習会【発展編】(4 名)		
第 4 回 (協会教室・オンライン)	受講者 4 名	(03.13)
⑯ アビオニクス基礎講習会 (47 名)		
第 83 回 (協会教室・オンライン)	受講者 14 名	(06.26～06.28)
第 84 回 (オンライン)	受講者 10 名	(08.28～08.30)
第 85 回 (協会教室・オンライン)	受講者 14 名	(10.23～10.25)
第 86 回 (協会教室・オンライン)	受講者 9 名	(02.26～02.28)
⑰ エレクトロニクス基礎講習会 (18 名)		
第 4 回 (協会教室)	受講者 8 名	(07.18～07.19)
第 5 回 (協会教室・オンライン)	受講者 10 名	(12.12～12.13)
⑱ 基本技術講習会 (18 名)		
第 101 回 (全日本空輸 株)	受講者 10 名	(08.13～08.22)
第 102 回 (日本航空 株)	受講者 8 名	(01.07～01.17)
⑲ 法の実務的運用講習会 (14 名)		
第 2 回 (協会教室・オンライン)	受講者 7 名	(09.18)
第 3 回 (協会教室・オンライン)	受講者 7 名	(02.20)
⑳ 人事労務基礎講習会 (6 名)		
第 1 回 (協会教室・オンライン) ※開催なし	受講者 0 名	(09.11)
第 2 回 (協会教室・オンライン)	受講者 6 名	(01.24)
㉑ 小型機・回転翼機 SMS 講習会 (12 名)		
第 1 回 (協会教室)	受講者 12 名	(12.10)
㉒ 受託講習会 (講師派遣形態) (148 名)		
技術系入門 (中日本 名古屋)	受講者 27 名	(04.10～04.11)
航空法規 (朝日航洋 新木場)	受講者 10 名	(05.21)
はじめて HF (KAFCO 銀座)	受講者 16 名	(07.18)
航空法規 (スバル 栃木)	受講者 34 名	(07.25)
航空法規 (セントラルヘリ 名古屋)	受講者 20 名	(09.17)
英語入門 (日本飛行機 大和)	受講者 16 名	(09.27)
はじめて HF (セントラルヘリ 名古屋)	受講者 11 名	(10.29)
SMS (国土交通省 千葉)	受講者 9 名	(11.14)
大型飛行機解説 (国土交通省 協会教室)	受講者 5 名	(01.27～01.31)

(2) 機関誌

機関誌「航空技術」の各号における特集記事は以下の通り。

(※：本協会による表彰事案の詳細紹介の記事)

VTOL 無人機 K-RACER の開発	(4 月)
AirJapan、成田-バンコク線で初便就航	(4 月)
FDA、純国産のバッテリー式電源装置「eGPU」を本邦初導入	(4 月)
JAL、13 年ぶりに自社貨物専用機を運航開始	(4 月)
オリックス・レンテック社、「Tokyo 3D Lab.」をリニューアル・オープン	(4 月)
RFID を活用した FOD 防止について	(5 月)
ANA、国内線仕様のボーイング 787-10 型の運航を開始	(5 月)
*GEnx エンジン、Accessory Gearbox、Static Pressure Test 代替方法について	(6 月)
Point to Point の旅客輸送の将来ビジョン創造について	(6 月)
ヤマトホールディングス、貨物専用機を就航	(6 月)
ANA、地上支援車両への再生燃料利用に関する実証を開始	(6 月)
航空機部品への良品条件管理の適用事例	(7 月)
eVTOL 機、東京都内で初飛行	(7 月)
ANA、EV ヘアアップサイクルした GSE を公開	(7 月)
NTT ドコモ、Space Compass が HAPS で AALTO 社、エアバス社と資本業務提携	(7 月)
ANA グループ初、電動ファン付きベストを導入	(8 月)
Japan Drone 2024	(8 月)
最後のベルーガ XL 型 6 号機、就航	(8 月)
ANA、空港車両の完全自動走行実証を実施	(9 月)
A321P2F、羽田空港に就航	(9 月)
九電ドローンサービスによる各種ドローンサービス	(9 月)
株式会社 IHI、ライフサイクルソリューションセンター社員紹介	(9 月)
*SMS 教育の進捗状況管理の自動化による作業時間の低減	(10 月)
ispace と JAL、ミッション 2 ローバーの日本到着報告会開催	(10 月)
ANA、リブレット加工フィルム「AeroSHARK」を導入	(10 月)
JAL、新搭乗方式を適用開始	(10 月)
ANA、VR シミュレーター「V TRAS (アトラス)」を導入	(11 月)
RIAT2024 と FIA2024	(11 月)
福島ロボットテストフィールドの紹介	(11 月)
*Trent1000 修理開発における Tool 製作時の 3D プリンタ活用 (創意工夫) による Tool 製作期間の短縮	(12 月)
*国際線ライン整備委託便における委託管理情報の送受信環境改善による業務効率化	(12 月)
「ANA Cargo Base +」を公開	(12 月)
アジア・エタノール・サミット開催	(12 月)
2024 国際航空宇宙展	(12 月)
*異臭サンプルを用いた運航・客室乗務員異臭訓練の確立	(1 月)
*Wheel & Tire Assembly 修理における Outer Grease Seal の Separation 防止	(1 月)
「第 1 回 ANA グループグランドハンドリングスキルコンテスト」開催	(1 月)

産学官連携「2024 年度航空機整備技能コンテスト」開催	(1 月)
「第 33 回全国産業用無人ヘリコプター飛行技術競技大会」開催	(1 月)
環境負荷低減に向けた旅客機へのリブレット実装の取り組み	(2 月)
JAL、リブレット形状塗膜施工した 787-9 型を国際線で運航開始	(2 月)
Aircraft Cabin Innovation Summit Asia 2024	(2 月)
(株) JAL エンジニアリング、トップマイスターに聞く！	(2 月)
JAL、電動大型 GSE 車両を日本初導入	(3 月)
KHI、「K-RACER-X2」型による無人物資輸送の飛行実証を実施	(3 月)
複合材主翼組立工程への AI 活用 シム板厚予測モデル導入	(3 月)
ACT FOR SKY シンポジウム (1)	(3 月)

(3) 航空従事者に関わる支援養成事業

国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会が幹事校である成田国際航空専門学校で開催され、これに参画しました。(2024 年 9 月 24 日～9 月 25 日)

C. 航空技術者の育成と航空界貢献者への表彰

(1) 「会長賞」表彰

今年度は、【企業・団体部門】の推薦案件 45 件及び【学校部門】の推薦案件 1 件に対して表彰審議会において選考・審査した結果、下記の個人又はグループに会長賞、表彰審議会委員長特別賞、奨励賞を授与しました。

【企業・団体部門】(敬称略)

○会 長 賞 (1 件)

研究・開発の部：全日空モーターサービス (株) GSE 整備部/企画総務部
「本邦初、航空機地上支援車両の EV コンバージョン」

○表彰審議会委員長特別賞 (5 件)

業務改善の部： ANA ベースメンテナンステクニクス (株) 猪又基/藤原庸平/福元高広/村山秀史/浦本靖 殿

全日本空輸 (株) 波多野博之 殿

「Q400 Nacelle L_E Fairing FWD Access Panel Heat Damage ・ Delamination に対する修理方法の提案」

業務改善の部： (株) JAL エンジニアリング・小林達也

「E170 WING TIE BOLT ECI STAND の作成」

業務改善の部： 株式会社 JAL エンジニアリング・佐々木一至

「787 Landing Gear Wire Harness の自動試験機開発」

研究・開発の部：全日本空輸 (株)・重富貞成

「整備部門の知見と AI 技術を活用した DHC-8-400 型機 Engine Driven Pump の故障予測モデルの開発」

業務改善の部： ANA ベースメンテナンステクニクス (株)・森翔哉

「PW1100G ENGINE 再使用処置不可低減 に向けた取り組み」

○奨 励 賞 (39 件)

研究・開発の部： 全日本空輸 (株)・整備センター 松井宏司朗/裙本晋之助/宇戸基/春原光希/宮園晃輝

「B777 型機リブレット装着による燃料消費量および CO2 排 出量の削減」

- 業務改善の部： (株) JAL エンジニアリング・鹿嶋翔大/二木智行/安藤雄二/国分寿夫/道祐一
「社内規程共通化プロジェクト」
- 業務改善の部： ANA ベースメンテナンステクニクス (株)・STRETCHER 大改革 プロジェクトチーム
「STRETCHER 大改革 プロジェクト」
- 研究・開発の部： 川崎重工業 (株)・航空宇宙システムカンパニー岡田拓武 / 岡田豪生
「第 62 回飛行機シンポジウム (2024) 発表「磁気軸受スピンドルを用いた難削材への高品質孔開け」
- 業務改善の部： ANA エンジンテクニクス (株)・整備部整備第 3 課 秋庭 和輝
「Trent1000 エンジン状態での CompressorIntermediate Module の Air Scal 交換方法の確立」
- 教育訓練の部： (株) JAL エンジニアリング・竹廣崇/井口輝之/徳渕圭一/川口敏史
「A350 訓練体系変更プロジェクト」
- 業務改善の部： ANA エアポートサービス (株)・中村信雄
「給排水回数を毎日から 2 日に 1 回に見直し」
- 業務改善の部： 全日本空輸 (株)・田中雅貴/多田正彦/片岡美也子/犬塚鉄平
「B787 部品交換の交換間隔の見直しについて」
- 業務改善の部： (株) JAL エンジニアリング・野田正樹
「整備用物品購買修理等プロセスの改善」
- 業務改善の部： (株) JAL エンジニアリング・川波広夢/藤原渉/種田圭之介/江崎洋
「修理依頼システム電子化プロジェクト」
- 業務改善の部： 全日本空輸 (株)・市川昌孝/國武義昌/新井貴子/木佐木隆介/藤原庸平/山口冬雅
「取り卸しカーテンの修理再生を通じた ESG 活動の推進」
- 業務改善の部： ANA ラインメンテナンステクニクス (株)・湯山紘章/伊藤和貴
「e.AHM を活用した機材不具合の前歴確認と同一 MSG 検索について」
- 業務改善の部： (株) JAL エンジニアリング・小阪真柚子
「ERJ 機 SQ 作業における ENG V-GLOOVE FINISH TOOL の製作」
- 業務改善の部： (株) JAL エンジニアリング・吉野訓史
「設備資産棚卸の DX 化」
- 業務改善の部： 全日本空輸 (株)・濱門亮佑/高橋孝輔/橋本修一/森万季子/橋本結城
「B787 LANDING GEAR 交換における各種手順の新規設定と工数標準化の取り組み」
- 業務改善の部： (株) JAL エンジニアリング・小笠原純志/丹野則之/平井亮資/長家大晃/佐藤翔一/北脇俊次
「787 EEC PS3 PURGE の効果を高めるための HEATING KIT の作製」
- 業務改善の部： (株) JAL エンジニアリング・窪田和広
「過去資料の検索性・アクセス向上と管理業務の負荷軽減」
- 業務改善の部： (株) JAL エンジニアリング・大西菜々香
「Boeing 受託拡大に向けた 787 ランディングギア整備の工数削減」
- 教育訓練の部： 全日本空輸 (株)・中川潤一/檜原一平
「一整 局学科試験支援 ランダム出題のアプリ開発 (青塾アプリ!)」

- 業務改善の部： アイベックスエアラインズ（株）・整備部
「CRJ700 エンジンビルドアップ作業の工期短縮」
- 業務改善の部： 三菱重工航空エンジン（株）・製造統括部小牧北製造部部品一係ディスク班
「エアバス A350 用 TrenXWB ディスク & PW4000 ディスクの月産 30 個以上の安定生産確立に向けて」
- 業務改善の部： （株）JAL エンジニアリング・PANUPONG BOONKERTRAM
「航空機の便間整備に係る業務の DX 化による業務改善」
- 業務改善の部： （株）JAL エンジニアリング・濱田和香奈
「ランプエリアにおける作業用 STEP 配置の最適化」
- 業務改善の部： 全日本空輸（株）・福島のだみ/ANA エンジンテクニクス（株）・大宮渉
「“事故の型” から始める危険予知活動」
- 業務改善の部： 両備ホールディングス（株）両備スカイサービスカンパニー・グランドハンドリング部インストラクターチーム
「危険の見える化で未然防止を！【危険表示カードの活用】」
- 業務改善の部： （株）JAL エンジニアリング・土井孝史
「737-800・787・ATR における CPT EFB IPAD 保持具 MOUNT の開発」
- 業務改善の部： （株）JAL エンジニアリング・五十嵐直
「787 FUEL NOZZLE PAD INSERT REPAIR KIT の新規配備」
- 業務改善の部： 全日本空輸（株）・河内翔太/濱門亮佑
「【海外整備委託会社の整備委託の工期短縮】 HAECO 社工程短縮」
- 業務改善の部： ANA ベースメンテナンステクニクス（株）・山門慎平/小坂圭司
「B787 ポンプ改修作業における業務改善および機体品質向上への取り組み」
- 業務改善の部： ANA エアロサプライシステム（株）・笠原めぐみ
「B8BATTERY CHARGER ADAPTER CABLE(T_N_P039978)」
- 業務改善の部： 三菱重工航空エンジン（株）・整備部エンジン整備課工程進捗係キット班
「製品保管における省スペース化改善」
- 業務改善の部： 全日本空輸（株）・梶畠綾/田代健太/酒谷修/佐々木永泰/稲生佳樹/小川皓司
「DHC-8-400 Rudder Trim Uncommanded Motion への技術対応」
- 業務改善の部： （株）JAL エンジニアリング・徳山好紀
「エンジン整備センターにおけるエンジン生産状況の見える化」
- 業務改善の部： （株）JAL エンジニアリング・佐藤聡
「不足消耗品リストの自動化」
- 業務改善の部： （株）JAL エンジニアリング・森脇祐太
「大阪航空機整備センター TAILDOCK 安全強化プロジェクト」
- 業務改善の部： 三菱重工航空エンジン（株）・製造統括部長崎製造部長崎製造課部品係ケース班 西川嘉一/糸瀬友作
「PW1100G-JM エンジンの燃焼器ケース自動加工ラインにおける設備稼働率改善による生産台数の向上」
- 業務改善の部： （株）JAL エンジニアリング・秦和也
「重整備モニタリングによる ERJ 遅延欠航率低減のための施策群」
- 業務改善の部： ANA ラインメンテナンステクニクス（株）・可知佳晃/中村圭佑/山内駿
「マスター勤務表の電子化に伴う生産性向上」

教育訓練の部： ANA コンポーネントテクニクス（株）・長尾将太
「映像技術を活用 した新たな訓練教材の制作」

【学校部門】

○会 長 賞（1 件）

学校教育の部：（学）君が淵学園 崇城大学・河野卒研室

「e ラーニングシステムの構築「SOJO Aircraft Education Material」」

（2）学生奨励金

航空整備士等の技術者を目指す本協会の賛助会員である航空専門学校及び大学（航空関連学科）等の学生会員である学生に対し、航空界の人材育成の促進を図ることを目的に、表彰審議会において選考・審査のうえ、下記 8 校 10 名に奨励金を支給しました。

- ・日本航空大学校 石川
- ・日本航空大学校 北海道
- ・大阪航空専門学校
- ・成田国際航空専門学校
- ・東日本航空専門学校
- ・国際航空専門学校
- ・中日本航空専門学校
- ・崇城大学

（3）卒業生への「会長賞」表彰

将来航空界を目指す学生の向上心を高めていただく一助として、表彰審議会において選考・審査し、学業優秀な卒業生 9 校 9 名（本協会の賛助会員である学生会員）に授与しました。

- ・日本航空高等学校 能登空港キャンパス
- ・日本航空大学校 石川
- ・日本航空大学校 北海道
- ・大阪航空専門学校
- ・成田国際航空専門学校
- ・東日本航空専門学校
- ・国際航空専門学校
- ・中日本航空専門学校
- ・崇城大学

（4）叙勲、褒章、国土交通大臣表彰、東京航空局長表彰、大阪航空局長表彰、他団体表彰

航空関係功労者については、表彰審議会において選考し必要に応じ推薦順位を付与し、当局に表彰候補者の推薦を行いました。

航空関係功労者表彰受賞者（敬称略）

○黄綬褒章（春）（2 名）： 島 仲 武 知花 賢和

○黄綬褒章（秋）（2 名）： 原 洋二 足立 勝義

○国土交通大臣表彰（13 名）： 赤木 和弘 幸地 司 廣谷 周三 小島 和紀
高橋 正 赤嶺 和則 仲田 直二 河野 洋祐
吉本 健一 大江 文則 斉藤啓太郎 明石 好則
佐藤 岳彦

○東京航空局表彰（20 名）： 鳥羽山和宏 上田 俊哉 今野 彰紀 緑川 孝行
木村 喜宏 太田 稔 大城 敦 渡辺 誠
松尾 好哲 鈴木 伸和 宮内 英貴 木村 靖
崎山 浩 西田 宣夫 木下 優子 下田 敬幸
景山 高行 武井慎之助 綿貫 達真 平田健一郎

○大阪航空局長表彰（13 名）： 奥村 友一 小谷 浩晴 瀧 貴志 村田 雄介
風岡 輝徳 岩崎 道雄 香呂 和彦 鈴木 淳
過足 幹士 當山 真作 図師三千夫 杉山 賢哉
大城 浩徳

D. 情報の発信、調査研究 助言・提言事業

(1) コンサルタント（助言）

文部科学省「職業実践専門課程」

東日本航空専門学校、中日本航空専門学校、成田国際航空専門学校、大阪航空専門学校、日本航空大学校 北海道、国際航空専門学校が実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として教育を行う文部科学省「職業実践専門課程」の教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会に学外委員として参画し、継続的に助言・提言を実施しました。

「調査研究」

回転翼航空機、滑空機、航空工場整備士の航空従事者学科試験シラバスの見直しを航空局から受託し実施しました。

(2) 「航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会」

本協議会の下に整備士養成ワーキンググループ、製造技術者ワーキンググループ、裾野拡大ワーキンググループが設置され、令和 5 年度の活動報告が取り纏められました。

○整備士養成ワーキンググループ

・整備士の英語能力の向上

これからの時代に適した最新の英語学習法を知り、実践することを目的として、従来の「航空英語学習講座」【入門編】と【応用編】の 2 編成から【基礎編】（旧入門編）、【入門編】（新設）、【応用編】、【発展編】（新設）の 4 編成へと再編し、整備士の英語能力の更なる向上に向けた取組を実施しました。

また、スマートフォン用 Web ページ「スマホで航空英単語」については、アクセス数が約 5 万件となり、順調な伸びを背景に内容を拡充しました。

・整備管理従事者の養成

整備管理従事者講習会【入門編】（2 日間コース）及び【専門編】と位置づけた「航空機耐空性管理コース（法と運用、MRB,MEL）」（2 日コース）を継続して（入門編×2 回、専門編×2 回）実施しました。

・整備士の技量・技能の維持・伝承

これまでの取組において知見や技法等の共有と蓄積がある程度進んできていたことを受け、発表会がより充実した内容となるよう継続しているが、具体的な検討には至らなかったものの、新たな取り組みとして、日本航空技術協会の主催で産学共同「航空機整備技能コンテスト」を開催しました。

・中長期的な整備士の養成のあり方に関する検討、外国人材の活用等

整備士養成のあり方検討については、「国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会」へ参画しました。

また、航空従事者指定養成施設等（整備）における無利子貸与型奨学金『航空整備士育成支援プログラム』を創設しました。

外国人材の活用に係る制度については、特定技能評価試験（航空機整備）を海外（モンゴル国）において実施し、さらにモンゴル以外の国で行うための調査、調整等の準備を行いました。

○裾野拡大ワーキンググループ

（同ワーキンググループは「航空機操縦士養成連絡協議会」と共同開催である）

・現役の女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による講演会の開催

両協議会が連携し、令和 6 年 12 月 14 日にスカイマーク株式会社で開催しました。

(3) 特定技能評価試験事業

航空分野における航空機整備職と空港グランドハンドリング職に係る「特定技能評価試験実施機関」として、関係する省庁や企業と連携して、今年度は、航空機整備職に係る試験をモンゴル、フィリピンで実施し、空港グランドハンドリング職に係る試験を国内では東京、大阪、福岡、名古屋で、海外はフィリピン、ネパール、インドネシア、スリランカの5ヶ国で実施しました。

○航空機整備

- ・4月27日、海外第4回特定技能評価試験をモンゴルで実施しました。
(受験者35名、合格者19名、合格率54.3%)
- ・5月19日、海外第5回特定技能評価試験をフィリピンで実施しました。
(受験者12名、合格者10名、合格率83.3%)
- ・3月15日、海外第6回特定技能評価試験をモンゴルで実施しました。
(受験者29名、合格者8名、合格率27.6%)

○空港グランドハンドリング

- ・5月16日、18日、20日海外第8回目特定技能評価試験をフィリピンにおいて実施しました。(受験者469名、合格者341名、合格率72.7%)
- ・6月3日東京都、9日大阪府、10日福岡県で第19回特定技能評価試験を実施しました。(受験者278名、合格者215名、合格率77.3%)
- ・7月1日、2日、3日海外第9回特定技能評価試験をネパールにおいて実施しました。(受験者343名、合格者271名、合格率79.0%)
- ・8月3日福岡県、6日東京都、12日大阪府で第20回特定技能評価試験を実施しました。(受験者227名、合格者144名、合格率63.4%)
- ・9月14日、16日、17日、19日海外第10回特定技能評価試験をインドネシアにおいて実施しました。(受験者353名、合格者165名、合格率46.7%)
- ・10月26日、28日、30日海外第11回特定技能評価試験をフィリピンにおいて実施しました。(受験者273名、合格者123名、合格率45.1%)
- ・11月25日東京都、12月1日大阪府、2日福岡県で第21回特定技能評価試験を実施しました。(受験者263名、合格者169名、合格率64.3%)
- ・12月21日、22日海外第12回特定技能評価試験をスリランカにおいて実施しました。(受験者240名、合格者133名、合格率55.4%)
- ・2月18日東京都、25日愛知県、26日、27日大阪府で第22回特定技能評価試験を実施しました。(受験者281名、合格者177名、合格率63.0%)

(4) 国土交通省 交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会

第21回(3月27日)に国土交通省 交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会が開催され、委員として参加しました。

E. 図書頒布事業

主な図書の販売実績は以下のとおりです。

【新刊】

かなりマニアックな ヘリコプター豆知識 (7月)

2,794冊

【改訂版】

航空機整備作業の基準 AC-43 改訂第3版(8月)	93冊
航空機検査業務サーキュラー集 追録61号(11月)	104部
航空工学講座【4】航空機材料 第4版(3月)	421冊
新航空法規解説 第21版(3月)	316冊
航空整備士学科試験問題集・問題編(2025年版)(3月)	215冊
航空整備士学科試験問題集・解答編(2025年版)(3月)	215冊

【その他】

航空工学講座【1】航空力学	920冊
航空工学講座【2】飛行機構造	597冊
航空工学講座【3】航空機システム	638冊
航空工学講座【4】航空機材料(旧版)	99冊
航空工学講座【5】ピストン・エンジン	547冊
航空工学講座【6】プロペラ	543冊
航空工学講座【7】タービン・エンジン	807冊
航空工学講座【8】航空計器	843冊
航空工学講座【9】航空電子・電気の基礎	515冊
航空工学講座【10】航空電子・電気装備	696冊
航空工学講座【11】ヘリコプタ	327冊
学科試験ガイド	25冊
航空整備士実地試験要領	29冊
航空力学 I	372冊
航空力学 II	283冊
ザ・ジェット・エンジン	131冊
ヒューマンファクターの基礎	320冊
航空整備士ハンドブック	138冊
航空機の基本技術	1,379冊
航空機の基本技術 基本工具 編	366冊
航空機整備作業の基準 AC-43 (旧版)	19冊
新航空法規解説(旧版:第20版)	319冊
航空機のグランドハンドリング	498冊
飛行機の構造設計	122冊
旅客機の開発史	7冊
空を飛ぶはなし	923冊
ヘリコプター・フライング・ハンドブック	95冊
航空電気入門	185冊
航空電子入門	268冊
航空工学入門	308冊
航空英語入門	52冊
航空技術英単語	132冊
アビオニクスレッスン	212冊

新・これから学ぶ 航空機整備英語マニュアル	288 冊
2024年版 整備士学科試験問題集（問題）	133 冊
2024年版 整備士学科試験問題集（解答）	136 冊
航空機構造破壊	41 冊
ご隠居のヒコークィ小噺	46 冊
航空輸送100年 安全性向上の歩み	40 冊
航空機検査業務サーキュラー集 追録 60 号	33 部
かなりマニアックな飛行機豆知識	3,821 冊

F. その他公益活動

以下の通り他団体の活動に協力している。

- ① （公財）航空輸送技術研究センター 評議員
- ② （一財）航空医学研究センター 理事
- ③ （一財）日本航空協会 理事
- ④ （公社）日本工学会「事務研究委員会」理事
- ⑤ （一財）航空保安無線システム協会 評議員
- ⑥ （一財）航空保安施設信頼性センター 評議員
- ⑦ （一社）日本非破壊検査協会「非破壊検査技術者技量認定委員会」委員
- ⑧ （一社）日本非破壊検査協会「日本非破壊検査協会諮問委員会」委員
- ⑨ 「空の日」・「空の旬間」実行委員会 監事、幹事会幹事
- ⑩ （一社）日本航空宇宙学会「飛行機シンポジウム」企画幹事会 幹事
- ⑪ （公財）防衛基盤整備協会「異議処理・苦情等処理委員会」委員

Ⅲ. 会員数の現状

A. 個人会員総数（令和7年3月31日現在）

（1）正 会 員

	令和5年度	令和6年度	会員数増減
航空運送事業者	1,435 名	1398 名	-37 名
整備・製造会社	970 名	995 名	25 名
空港関連事業者	59 名	50 名	-9 名
官公庁	196 名	188 名	-8 名
学校	78 名	67 名	-11 名
報道関係・団体等	53 名	52 名	-1 名
その他	457 名	426 名	-31 名
合計	3,248 名	3,176 名	-72 名

(2) 学生会員

	令和 5 年度	令和 6 年度	会員数増減
大阪航空専門学校	71 名	44 名	-27 名
国際航空専門学校	196 名	180 名	-16 名
中日本航空専門学校	430 名	387 名	-43 名
成田国際航空専門学校	40 名	56 名	16 名
日本航空大学校 石川	289 名	237 名	-52 名
日本航空大学校 北海道	351 名	364 名	13 名
東日本航空専門学校	34 名	30 名	-4 名
崇城大学	50 名	70 名	20 名
その他	7 名	7 名	0 名
合計	1468 名	1375 名	-93 名

B. 賛助会員 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

153 社

(1) 航空運送事業者

40 社

アイベックスエアラインズ (株)
朝日航空 (株)
アジア航測 (株)
ANAウィングス (株)
エクセル航空 (株)
岡山航空 (株)
オリエンタルエアブリッジ (株)
共立航空撮影 (株)
ジェットスター・ジャパン (株)
新中央航空 (株)
スカイネットアカデミー (株)
(株) スターフライヤー
セントラルヘリコプターサービス (株)
ダイヤモンドエアサービス (株)
東北エアサービス (株)
西日本空輸 (株)
日本貨物航空 (株)
日本トランスオーシャン航空 (株)
(株) フジドリームエアラインズ
北海道航空 (株)

アカギヘリコプター (株)
朝日航洋 (株)
天草エアライン (株)
(株) AIRDO
(株) オンリーユーエア
オールニッポンヘリコプター (株)
国土航空 (株)
四国航空 (株)
静岡エアコピュータ (株)
新日本ヘリコプター (株)
スカイマーク (株)
全日本空輸 (株)
(株) ソラシドエア
東邦航空 (株)
中日本航空 (株)
日本エアコミューター (株)
日本航空 (株)
Peach・Aviation (株)
フジビジネスジェット (株)
琉球エアーコミューター (株)

(2) 整備・製造会社

35 社

(株) IHI
ANAコンポーネントテクニクス (株)

ANAエアロサプライシシステム (株)
ANAエンジンテクニクス (株)

ANAラインメンテナンステクニクス (株)	ANAベースメンテナンステクニクス
(株) SPP長崎エンジニアリング (株)	MRO J a p a n (株)
MH I エアロエンジンサービス (株)	川崎重工業 (株)
菊水電子工業 (株)	金属技研 (株)
(株) K J T D	航空機材 (株)
(株) ジャプコン	(株) ジャムコ
(株) J A L エンジニアリング	新明和工業 (株)
スカイレーベル (株)	(株) S U B A R U
豊富産業 (株)	多摩川エアロシステムズ (株)
多摩川スカイプレジジョン (株)	角田電機工業 (株)
沖電気工業 (株)	東プレ (株) 栃木事業所
(株) 徳島ジャムコ	ナブテスコ (株)
(株) ジャムコエアクラフトインテリアズ	日本特殊陶業 (株)
日本飛行機 (株)	三菱重工業 (株)
三菱重工航空エンジン (株)	矢崎総業 (株)
P a n d a ・ F l i g h t ・ A c a d e m y (株)	

(3) 海外メーカー

6 社

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン (株)	グッドイヤーエイビエーションジャパン
サフラン・ジャパン (株)	Bell Textron (株)
ボーイング・ジャパン (株)	ロールス・ロイスジャパン (株)

(4) 空港関連事業者

30 社

(株) アセアン	インターナショナル・カーゴ・サービス (株)
(株) インテックス	(株) エージーピー
(株) エーエスオー	ANA大阪空港 (株)
ANAエアポートサービス (株)	空港協力事業 (株)
空港施設 (株)	(株) K グランドサービス
鴻池運輸 (株)	コウノイケ・エアポートサービス (株)
コウノイケ・スカイサポート (株)	サンコー・エア・セルテック (株)
(株) C K T S	スイスポートジャパン (株)
(株) J A L エアテック	(株) J A L グランドサービス
(株) J A L スカイエアポート沖縄	
GE アビエーション・ディストリビューション・ジャパン (株)	
全日空モーターサービス (株)	(株) 東京オペレーションパートナーズ
関東テック協同組合	(株) 成田空港ビジネス
日本空港サービス (株)	羽田空港サービス (株)
(株) ヒダロジスティックス	(株) トランステイク
(株) フィルウインズ	
両備ホールディングス (株) 両備スカイサービスカンパニー	

(5) 宇宙関連事業者

1 社

有人宇宙システム (株)

(6) 商 社 等		12 社
エアロファシリティー (株)	(株) 海外物産	
兼松 (株)	Qsol (株)	
双日 (株)	三井物産エアロスペース (株)	
(株) ティーエムシーインターナショナル	日本エアロスペース (株)	
(株) 富士インダストリーズ	丸紅 (株)	
丸紅エアロスペース (株)		
(株) Japan General Aviation Service 羽田オフィス		
(7) 新 聞 社		1 社
(株) 読売新聞東京本社		
(8) 保 険		1 社
日本航空保険プール		
(9) 国立研究開発法人		2 法人
(国研) 宇宙航空研究開発機構		
(国研) 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所		
(10) 団体等		8 団体等
(一財) 航空保安無線システム協会	(公財) 航空輸送技術研究センター	
中央職業能力開発協会	(一社) 日本航空宇宙学会	
(公社) 日本航空機操縦士協会	(一社) 日本ビジネス航空協会	
名古屋商工会議所	(一社) ネパール人労働者支援協会	
(11) 学 校		15 校
(学) 桜美林学園	久留米工業大学	
国際航空専門学校	(学) 加計学園	
成田航空ビジネス航空専門学校	崇城大学	
第一工科大学	東京都立産業技術高等専門学校	
中日本航空専門学校	成田国際航空専門学校	
(学) 日本航空学園	日本文理大学	
東日本航空専門学校	(学) ヒラタ学園	
法政大学		
(12) 印刷会社		2 社
(株) 丸井工文社	(株) マルテックス	
		以上